

アフリカに躍進を！ひと、技術、イノベーションで  
—第7回アフリカ開発会議(TICAD VII)横浜で考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：パシフィコ横浜でのTICADVIIに参加したそうですね。

A：はい。公益社団法人経済同友会アフリカ委員会で10年以上にわたり、アフリカの開発支援と日本企業のアフリカ進出支援について調査・研究・提言の策定の活動をしてきましたので、本日8月下旬に横浜で開かれたTICAD VIIに参加させていただきました。

Q：TICADVIIとは、そもそも何ですか。

A：(1) TICAD(ティカッド)とは、Tokyo International Conference on African Development (アフリカ開発会議)の略で、アフリカの開発をテーマとする国際会議です。1993年以降、日本政府が主導し、国連、国連開発計画(UNDP)、世界銀行及びアフリカ連合委員会(AUC)と共同で3年ごとに開催しています。

(2) 前回の2016年8月のTICAD VIは、初めてのアフリカでの開催で、安倍晋三内閣総理大臣が出席し、ケニヤッタ・ケニア大統領(開催国)、デビー・イトゥノ・チャド共和国大統領(AU議長)と共に共同議長を務めました。

(3) 今回のTICAD VII(第7回)は、本年2019年8月28日～30日に横浜桜木町のパシフィコ横浜国際会議場で開催されました。42名の首脳級を含むアフリカ53か国と、中国を含む52か国の開発パートナー諸国、108の国際関係機関及び地域機関の代表並びに民間センターやNGO等市民社会の代表等10000名以上が参加。

(4) 安倍総理大臣がエルシーシー・エジプト大統領(AU議長)と共に共同議長を務めました。

Q：TICADVIIのテーマは何でしたか。

A：「アフリカに躍進を！ひと、技術、イノベーションで」でした。

(1) 人材育成、(2) 民間セクターの育成やイノベーションを通じた経済構造転換とビジネス環境整備、(3) 官民ビジネス対話、(4) 持続可能で強靱な社会の深化、(5) 平和と安定などが話し合われました。

Q：林さんは何に参加したのですか。

A：TICAD VII中に、140もの公式サイドイベントや100余りの展示がありました。

(1) その中で、国連大学での「ルワンダ ICT イノベーションフォーラム」、明治大学リバティ

ホールでの J.スティグリッツ教授の「グローバル化する世界とアフリカー SDGs の達成に向けて」の講演会に参加しました。明治大学でのスティグリッツ教授の英語の講演会では、1000 名余りの参加者の大半が同時通訳なしで参加していました。英語による議論も活発で、明治大学の質の高さとアフリカへの関心の高さに感動しました。

(2) メイン会場のパシフィコ横浜では、「デジタル技術がもたらすビジネスチャンス(2050 年アフリカは人口 50 億人に)」や「アフリカと日本の科学技術イノベーションにおける大学・産学連携」「アイデアからアクションへ：アフリカ×科学・技術・イノベーション (STI)」「G20 アフリカとのコンパクト」「アフリカにおける SDGs 達成と TICAD 推進に向けてー日本発、若手研究者の貢献」などに参加。

(3) 日本は人材育成や科学技術・イノベーションの分野でアフリカの発展に貢献しつつ、日本の発展にも役立つことを痛感しました。

**Q：今後、日本政府や企業はどうすればよいと考えますか。**

A：(1) 中国やインドを抜き、世界最大の人口を擁することが予想されるアフリカ 54 か国との関係を深め、その健全な発展を全面的に支援することは、超少子・高齢化の中で 1000 兆円以上の国と地方の債務をかかえる縮小化傾向の強い日本の発展にとり、大きな展望と可能性をもたらすものと確信します。

(2) 中国や欧米とは全く異なった、日本独自の強みを生かしたアフリカ支援、例えば、職業訓練や工業・商業・専門学校・理工系大学などでの人材育成や改善活動、交番システムを含む警察や保健所など、きめ細かい支援が望まれます。

(3) 日本外交の基本方針である「国際協調主義(国際秩序のしくみづくり)」や「人間の安全保障(1 人ひとりの人間に着目して保護と能力強化をはかること)」は、日本独自のアフリカ支援として高く評価されます。

**Q：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部にお願いしたいことは何ですか。**

A：(1) 人口爆発が予想されるアフリカが 21 世紀の成長センターであることは間違いありませんので、アフリカ各国間の経済格差是正や貧困の撲滅のための支援をすることは、日本政府の最大のテーマとなります。

(2) われわれ民間教育機関では、アフリカとの文化交流からアフリカ理解を始めると同時に、アフリカでの人材育成にどのように貢献できるかを考えるべきと確信します。

(3) アフリカからの留学生の受け入れ、アフリカへの民間教育機関の進出は、アフリカ支援のみならず日本の民間教育機関の発展のために大きく寄与すると確信いたします。

(4) 経済産業省に「アフリカビジネス協議会」がスタートしましたので、HP で検索し、参加申し込みをすることをお勧めいたします。ワンストップでアフリカビジネスに関する情報収集や関係機関との交流が可能となります。是非、御活用を。

(5) 次回の「TICAD VIII」がアフリカで開催される 2012 年までに、日本企業のアフリカ進出は一気に加速され本格化すると考えられます。是非、「TICAD VIII」に向けての活動に御注目ください。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も、皆様がお読みになれば必ず役に立つと思われる本を何冊が御紹介させていただきます。

- (1) 1冊目は、橋場弦監修「英文詳説世界史、WORLD HISTORY for High School」山川出版社 2019年8月25日刊です。本書は、木村靖二著「詳説世界史 改新版」(世界史 B 高校教科書)山川出版社 2019年3月5日発行の「完全英訳版」です。「山川・世界史 B」の教科書で世界史を勉強したことのある人で、英語好きの人にとっては、文字通り「よだれが出る」ような「完全英訳版」です。この2冊を用いて、どう世界史の学び直しを日本語と英語とするか。高校生や大学生、社会人に英語や世界史を教える立場にある先生なら、この「完全英訳版」の「山川・世界史 B」を、どう自らの教育に活用するか。是非、十分お考えの上、失敗を恐れず「御挑戦」を。「新中学数学問題集(新中間)中1～中3」(教育開発刊)の「完全英訳版」と併用すれば、中学数学と高校世界史は、英語での学習が可能となります。中高一貫校の教材としても最適と確信します。
- (2) 2冊目は、アラン著(森有正訳)「わが思索のあと」中公文庫、中央公論社 2018年2月25日刊です。本書を読んでいて、アラン著(森有正訳)「定義集」みすず書房 1988年刊、アラン著(神谷幹夫訳)「幸福論」岩波文庫、岩波書店 1998年刊も再読しました。アランを師と仰ぎ、経験や思索を独自の言語表現にまで高めた訳者である哲学者、森有正先生の訳は、よく考えられたもので素晴らしい。「わが思索のあと」を読み、お勧めしたいのが、スピノザ著(畠中尚志訳)「知性改善論」岩波文庫、岩波書店 1931年4月5日刊です。スピノザ著(畠中尚志訳)「エチカー倫理学(上)(下)」岩波文庫、岩波書店 1951年9月5日刊とともにお勧めします。「エチカ」の前に「知性改善論」を我慢して読むと、「エチカ」の理解が促進されるようです。
- (3) 3冊目は、岡義達著「山県有朋ー明治日本の象徴ー」岩波文庫、岩波書店 2019年9月18日刊です。東京大学法学部日本政治史教授の岡義達先生の名著が「明治政治史(上)」(2019年2月16日刊)「明治政治史(下)」(3月16日刊)「転換期の大正」(4月17日刊)と、2月から毎月出版されています。この3冊に加えて、岡先生の名著「国際政治史」が岩波現代文庫から2009年6月に出されていますので、この4冊をていねいに読めば、明治と大正の日本政治とその背景となる世界の政治状況がよくわかります。今月紹介させていただいた「山県有朋」は、大正時代の日本政治の中心人物でもありましたので、本書により、より立体的な明治・大正の政治史理解が進むと確信します。
- (4) 学習塾や予備校、私立学校で教える先生方は、「山川・世界史 B」を英語版でも学び、アランやスピノザ、森有正などの先生で哲学に親しみ、東京大学の日本政治史・岡義達先生の研究成果、代表的著作を岩波文庫などでじっくり読むなどして、幅広い教養を身に付け、塾生の皆様に還元することが求められます。子どもたちに最高の教育を提供する前提は、先生方が少しずつでも意識的に質の高い勉強を生涯にわたって継続する以外にありません。

2019年10月5日、林明夫記